

更新日時：令和3年9月21日

箱根町第6次総合計画後期基本計画策定に係る各種団体ヒアリング調査
報告書

令和3年7月

— 目 次 —

I 実施目的	1
II 調査対象及び調査日時	1
III 調査結果	2
1 箱根 DMO	2
2 箱根温泉旅館ホテル協同組合	3
3 箱根町社会福祉協議会	5
4 ハコネスタイル	7
5 箱根町自治会連絡協議会	8
6 小田原箱根商工会議所	9
7 箱根中学校 P T A	10
8 子ども会育成連絡協議会	11
9 箱根湯本芸能組合	12
10 伊豆箱根鉄道株式会社	13
11 小田急箱根ホールディングス株式会社	15
12 彫刻の森美術館	17
13 星槎大学	19
IV 資 料	21

I 実施目的

町の最上位計画である「箱根町第6次総合計画」の後期基本計画を策定するにあたり、町内で活動されている各種団体の皆様が、どのような現状でどのような課題があり、今後どのような活動を想定されているかを把握し、まちづくりの参考とするためにヒアリング調査を実施した。

II 調査対象及び調査日時

令和3年3月11日（木）

団体名	時間	会場
箱根DMO	10:00～	箱根町役場3階打合せスペース
箱根温泉旅館ホテル協同組合	13:00～	箱根温泉旅館ホテル協同組合

令和3年3月18日（木）

団体名	時間	会場
箱根町社会福祉協議会	10:00～	箱根町社会福祉協議会
ハコネスタイル	14:15～	cotoha

令和3年5月18日（火）

団体名	時間	会場
箱根町自治会連絡協議会	10:00～	箱根町役場4階会議室
小田原箱根商工会議所	15:30～	箱根町役場4階会議室
箱根中学校PTA	17:30～	仙石原文化センター

令和3年5月25日（火）

団体名	時間	会場
子ども会育成連絡協議会	19:00～	箱根町役場4階会議室

令和3年7月6日（火）

団体名	時間	会場
箱根湯本芸能組合	13:30～	箱根湯本芸能組合 見番
伊豆箱根鉄道株式会社	15:30～	伊豆箱根鉄道株式会社

令和3年7月7日（水）

団体名	時間	会場
小田急箱根ホールディングス株式会社	10:00～	小田急箱根ホールディングス株式会社
彫刻の森美術館	13:00～	彫刻の森美術館

令和3年7月8日（木）

団体名	時間	会場
星槎大学	10:00～	星槎大学箱根キャンパス

Ⅲ 調査結果

1 箱根 DMO

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・2018年（平成元年）4月1日に、一般財団法人箱根町観光協会から「箱根 DMO」（一般財団法人箱根町観光協会）に変更した。
- ・箱根関所、観光案内所、森のふれあい館の運営や、誘客プロモーションなどを行っている。
- ・国立公園であることから他産業の誘致が難しく、観光でやっていけるように取り組んでおり、年間2,000万人の来訪客がある。
- ・2018年に「第2次箱根町 HOT21 観光プラン基本計画」を策定し、実施計画に基づく取り組みを行っている。
- ・国の観光立国やG o T o 事業は、箱根町にとって追い風になっている。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・5町村が合併してできた町であり、観光協会が地域に10団体あるなど、合意形成が難しいことが課題となっている。
- ・観光業界は人手不足となっており、リゾートバイトや外国人技能実習生なども取り合いになっている。
- ・環境先進観光地を謳っているが、富士箱根伊豆国立公園には一番人が来る。2050年のカーボンニュートラルに向けて遅れを取らないように、リアクティブからプロアクティブの動きが必要になっている。
- ・観光で食べている町なのに住民にその意識がないため、理解を得ることが必要。
- ・交通渋滞の解消が課題になっている。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・グリーンデスティネーションズが実施するTOP100選を目指す。
- ・人命か観光か、環境か観光か、生活か観光か、ではなく、どこからでもSDGsが感じられるショールームのような役割が果たせないか。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・官民協働ですべて連携して進めている。
- ・ユニバーサルツーリズム（観光弱者対策）に取り組みたい。
- ・小田原、箱根、商工会議所、自治会など、ワンチームになりたい。

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・観光業界の中でのプレゼンスが向上してほしい。
- ・こういう先進的な取り組みがすごい、さすが箱根、と言われるような一目置かれる存在であってほしい。
- ・伝統に基づいた箱根プライドが醸成されてほしい。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・教育系のところと一緒に取り組んでいきたい。
- ・都会と同じ子育て機能を持つのではなく、ネイティブの外国人と会話できたり、最先端のマーケティングに触れられたりする町となってはどうか。

2 箱根温泉旅館ホテル協同組合

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・協同組合としては昭和22年4月12日設立。組合の上部組織に神奈川県旅館ホテル生活衛生同業組合、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会がある。
- ・箱根町内の旅館及びホテルで構成、民泊はなく、旅館業法の届出事業所が対象で、現在106事業所が加入し、50%程度の加入率と思われる。
- ・事業目的は、物品の共同購入・求人募集・資金の貸し付け・債務の保証・団体契約の締結・知識の普及・情報の提供・労働保険の保険料の徴収・福利厚生事業等である。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・宿泊業もその形態が変化している。特にコロナ禍でインバウンド需要が全く望めない現在、国内利用客においても団体利用がない状態であるので、今後の状況の推移を見守っている段階である。
- ・個人客においても、宿泊においてニーズが多様化しているため施設の改修など対応が必要となり厳しい経営の中、投資費用の捻出など対応が求められている。
- ・十数社休業中で、経営基盤が弱いところを存続させる方法が課題となっている。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・まずは、アフターコロナを見据え対応を考えるが、まだまだウイズコロナとして経営を立て直していかなくてはならない状況が喫緊の課題である。
- ・この状態はいつかは終わるが、そこまでどうやっていくか、感染症対策を徹底し、正しい情報を提供していく。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・宿泊者を中心として、箱根の観光振興に関することの推進
 - ・観光客への情報発信の充実（町内のホームページはどこも似ているので、役場、DMO、交通機関などで役割分担ができるとよい）
 - ・宿泊クーポンの発行による需要喚起（首都圏が動き出せばG o T o関連事業やふるさと納税などで箱根はどこよりも回復が早いはず）
 - ・コロナ感染拡大をはじめ各種災害に対する準備（事業継続計画＝BCPが作成できるとよい）

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・観光地として生きていくしかない箱根において、それぞれのニーズへの柔軟な対応を行い、将来へ向かって継続的にかつ安定的に経営が行える、先行きに不安のない観光戦略の構築が必要である。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・固定資産税や入湯税など町の財源を担う役割を担っている宿泊業に対する支援の充実をお願いする。
- ・予約の8割がネットだが入金は1か月以上先になる。そうすると手持ち資金がなく投資できない。コロナ対策もそうだが、トイレの改修など投資が必要な業種であるため、資金援助は不可欠でありお願いしたい。
- ・ふるさと納税で緊急時の融資制度の創設を依頼したことがある。

- 個別の事業所においては、その規模により財政基盤の脆弱性が経営不安を招き、それぞれの特色を生かすことができないため、魅力ある特色のある宿泊施設の充実が図れなくなり、将来的に宿泊者数の減少につながることも危惧される。
- ワクチン接種の証として、あるいは体温が問題ないことの証として、シールを発行して着衣につけている例がある。この業界は受け身でしかないので、こうした取り組みをみるとよい。
- 観光とは何か、何が魅力なのか、行政は何をするか、地域は何をするか、もう一度考える必要があるのではないか。

3 箱根町社会福祉協議会

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・社会福祉法第 109 条に基づき昭和 61 年に設立された社会福祉法人。
- ・介護保険サービス提供事業者として、居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業を展開しているほか、地域活動支援センター「レインボー」や障害ホームヘルパー（居宅介護事業）といった障がいのある方に対する事業、生活困窮者向けのフードバンクも展開している。
- ・小地域福祉活動やボランティア活動、住民参加型活動など、住民参加と関係機関・団体との協働による取り組みを推進し、多様な主体の参加・連携強化により、地域全体で支え合うことを目指す「地域共生社会」実現のために活動を推進している。
- ・令和 2 年 12 月より、地域の相談ステーション「もっともっと」活動を展開し、町内 5 地域ごとに職員を配置し、地域包括支援センター職員、生活支援コーディネーター等と連携しながら、地域の困りごとや必要な資源開発等、地域の課題を地域の方たちと共に考え、共に解決に向けて活動する「身近な支え合いの仕組みづくり（ゴミ出し支援や見守りボランティアなど）」を実施している。
- ・以前はさくら館で活動していたが、平成 23 年から旧湯本中学校跡地で活動している。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・社協は地域福祉活動や介護保険サービス等、様々な事業を展開しているが、町民に対する認知度は低い。
- ・ホームページを開設し、社協だよりでも号外を出すなどして PR しているが、社協が何をやっている団体か知らない人が多い。
- ・社会教育センターも社協と呼ばれており、町民でも混乱する。
- ・人材確保が難しくなっている。
- ・広い町内で渋滞が発生して効率的な動きができないこともあり、介護事業は赤字となっているが、事業者が少ないため、やめるわけにはいかない。
- ・コロナ禍で貸付を利用される方が増えてきている。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・町内では買い物が課題になっており、コミュニティバスの検討を始めている。
- ・令和 3 年度から新しい地域福祉活動計画が始まり、若者を取り込んだ多世代間の交流や、高齢者中心から多世代支援へと活動していく予定。
- ・個の支援から地域支援へつなげていきたい。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・町福祉課と連携しているが、お互いをもっと知って連携することが大事であり、人事交流をするなどして連携を深めていきたい。
- ・以前より町との関係性は良くなったが、分業になっていてまだ壁を感じるので、今以上に町と協力していきたい。
- ・地域の企業や関係機関と連携した町ぐるみの交流の場づくり。例えばはこねマルシェ（仮）など。
- ・観光ボランティアの育成など、福祉に限らない団体との交流も進めていきたい。

⑤ 5 年後、10 年後、どのような町であってほしいですか。

- ・住みたい町と思えるような魅力のある町であってほしい。
- ・人口が少なくてもやっていけるようなまちづくりを。

- ・例えば塾が不要なほどのオンラインで進学率の高い教育が受けられるなど、観光だけに頼らない町であってほしい。
- ・観光客く住民、となるような行政施策のシフトチェンジを期待したい。
- ・在宅ワークの若者を取り込んでほしい。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・少人数の子どもたちへの手厚い支援が子どもたちに響き、箱根町にとどまらせているので、高校から大学になると町外へ出てしまうことを防ぐため、町民価格の交通手段があるとよい。
- ・共生が求められていて高齢者の同居者も少ないので、幼児学園に高齢者も触れあえるような場があるとよい。高齢者にとっても元気が出る。
- ・地域のみで地域を支えられなくなってきており、新しい力、若い力を取り込んでほしい。
- ・湯本地区は小田原市と変わらないので、山崎あたりに住宅地を確保してはどうか。
- ・湯本地区はロマンスカーもあるし、東京まで通えるので、こうした環境を活かしてはどうか。
- ・空き家を活用した移住促進と地域住民が集える居場所づくりが必要ではないか。
- ・来てもらうことが大事なので、ふるさと納税で町内の空き家に一泊できる返礼品をつけてはどうか。
- ・旧5町の独立感がいまだに強く、この辺が変える必要があるのではないか。調整は難しいと思うが、3地区にするなど区分の再検討をしてはどうか。

4 ハコネスタイル

① 団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・箱根への移住者支援団体で、主で活動している構成員は4名、2年目を迎えている。
- ・2週間程度のお試し移住ができるよう、仙石原の民家を改良し、管理運営を行っている。
- ・お試し移住やそのPR、施設の管理運営、緊急時の対応が主要な取り組みである。
- ・令和元年度は12組、令和2年度は70組程度の応募があり、観光目的ではなく移住や2地域居住を希望している人であることを確認するために選定を行っている。
- ・3件6名の移住者実績がある。

② 団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・ハコネスタイルは有志による任意団体で、町からの補助で成り立っており、将来的な自走が課題となっている。
- ・仙石原に施設があるが、できれば各地区に施設を増やしていきたい。
- ・支えてくれる人材が多ければ多いほどよい。
- ・お試し居住参加後に移住を希望されても、戸建ての賃貸物件があまりなく、ニーズに合った物件を提供できていない。

③ 今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・任意団体からNPO化を検討し始めている。
- ・拠点となる施設を増やしていきたい。
- ・移住者を増やし、町の人口を増やしていきたい。

④ 町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・町の補助を受けていることもあり、基本的には町と協働できている。
- ・働く場の確保としては商工会議所と、また基幹産業である観光団体と、移住者の増加に向けた協働も考えていきたい。
- ・町が実施した空き家の調査で空き家があることはわかっているので、空家バンクなどとも連携していきたい。

⑤ 5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・コロナで観光が大きな影響を受けたので、観光ともう一つの柱となるようなものがあるとよい。
- ・東京ではできないことができるし、ちょっとくらい不便なのがよいところ。
- ・住み続けたいと思われるまちであってほしい。

⑥ 町への要望や提案を教えてください。

- ・要望や提案が色々とあるだろうが、それをどう受け止めてどう展開するか示してほしい。
- ・住民が同じベクトルに向くようにしてほしい。
- ・コロナで状況が変わってきたので自由業の人を呼べるとよい。
- ・横浜市ではプレミアム企業という制度がある。突出したよいものがある企業なら入札ではない形で連携している。毎回違う事業者を選定するよりも、事業をしやすいまちになるのではないか。
- ・役場と関わりのない人には、役場が何をやっているか伝わっていない。もっとやっていることをPRしてもよいのではないか。
- ・防災対策は重要。道路がダメになると陸の孤島になる。各地域に避難所となる拠点施設が必要ではないか。

5 箱根町自治会連絡協議会

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・ 5 地区（箱根・仙石原・宮城野・温泉・湯本）の地区自治会長・副会長の連絡団体。
- ・ 各地区がそれぞれ抱えている問題や相談事の情報共有、役場とのパイプ役を担っている。
- ・ 「小田原・箱根気候変動ワンチーム宣言」10/27にて、ゴミ問題等について発表した。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・ 構成員の高齢化（80歳を超えている人もいる）。
- ・ 人が少なく、若い人達は働いている方が多いため、担い手が不足しており、なかなか次の人が見つからない。
- ・ 会長などの役職についている人は100%男性。女性の選任が難しい。
- ・ 自治会への加入率は高く、各地区の課題には上がっていない。個別アパート、ホテル従業員用のアパートに住んでいる方にも大家さんに加入してもらっている。
- ・ 防災については、自治会の中に防災組織があり、消防団が来るまでの初期活動を行っている。構成員の年齢が高いため、消防団のような活動は難しい。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・ SDGsの動きと合わせて、ゴミ問題、防災問題を各地区自治会のテーマとしている。
- ・ ゴミ問題は、箱根美化運動、美化会議（コロナで会議が出来ていないが）を行っている。
- ・ ゴミについては、量・分別・収集が大きな問題で、住民や観光客のゴミに対するモラルも向上させたい。チラシによる啓発等を考えているが、観光客は日本人だけではないので、日本語以外にも英語・中国語・韓国語等が必要だと感じている。
- ・ 防災については、訓練は自治会というよりは町全体で行っており、防災倉庫の点検や消火器の使い方の実演など、女性にも参加してもらい実際に使い方を覚えてもらっている。
- ・ 避難場所の周知徹底は行っているが、避難場所の一部には危険な地域もあり、避難場所の安全について、町に要望を出している。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・ 美しい箱根（美化運動）の推進。ゴミ問題だけでなく、建物や道路（路面・ガードレール等）、手すり他、町全体の景観を含めた美化活動。
- ・ 山のナラ枯れも、きれいではない。
- ・ 「安心して動ける町」が美しいまちであると考えするため、そこに近づけるように。

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・ 安心安全を実感できるまち。
- ・ 住民にとっては「住んで良かったなと思えるまち」。
- ・ 医療は、小田原と連携して動けるように。教育は、少子化対応が出来るまち。福祉は、精神的にも「明るいまちづくり」。
- ・ 住民も協力して、「明るいまち」にして行けたらよい。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・ 町の健全財政への道筋を示してほしい。
- ・ 財政状況（計画）は公表し、都度見直していけばよい。
- ・ ペーパーレス化（メール等で連絡出来るものはメールで）。
- ・ なぜ役場が必要なのか、いったん白紙にして考えてもよいのではないかと。

6 小田原箱根商工会議所

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・箱根支部に常駐している者は1名。
- ・箱根町の会員事業所は450社（小田原と合わせて約3,200社）で、サービス業がメイン。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

商工会議所の課題

- ・連絡が行き届かない。リアルタイムに通知できる手段がFAXしかなく、FAXを持たない事業所もある。また、FAXが届いても見てもらえないこともある。
- ・会員外への周知方法は更に弱い。
- ・マンパワーの問題もあり、きめ細かな対応が難しい。

商工業者の課題

- ・近年、複数回にわたる大涌谷の問題、台風被害など、自然災害のたびに会員企業が経営の危機に見舞われている。安定的に経営が出来るような対策が必要と感じる。
- ・ITへの対応が課題。国の支援策などを受けるには、すべてオンラインでの申請となっている。箱根町の経営者は高齢の方が多く、取り残されてしまっている経営者も多いのが現状。フォローできるところはしているが、マンパワーのため限界がある。
- ・子どもが継がない、高齢やコロナ等を理由に事業を閉鎖するところが出てきている。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・きめ細かな経営支援。各地区と連携して巡回指導活動や、国・県・自治体の支援策の情報提供。
- ・C's-Connect（シーズコネクト）による運営システムの構築を進めている。将来的にはお客様のメールアドレスを集めて、情報の一斉送信や、出欠確認等も行えるようになり、登録者の情報やアクセス履歴より、お客様のそれぞれの傾向、分析、アフターフォローと繋げていくことができる。
- ・商店会などと連携した活性化策の展開。
- ・役員会には若い人の姿も見えるようになった。そういう人達の支援も進めていきたい。
- ・青年部の活動も活発化させていきたい。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・経営支援関連（セミナーや経営相談会、IT研修など）は、一緒に協力して出来ると思うので、そこは協力して実施したい。
- ・会議所本体の会議に参画頂いている。（tokyo2020タスクフォース、コロナ対策会議など）
- ・観光協会と協働で何かできたらいいなと思っている。
- ・寄木細工の伝承、ビジネスマッチング。

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・自然豊かで、人も豊かな町であってほしい。
- ・観光だけでなく、人口減少も歯止めがかかればよい。そのためには医療、学校、交通などの面で住みやすいまちである必要があり、税収確保も必要。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・人手が足りないので、箱根支部にもう一人ほしい。
- ・人件費などユーティリティに使える補助金があるとよい。
- ・箱根は特殊で、旅館などの観光が潤わないと他の産業が潤わない。
- ・国立公園のため勝手に木も切れないので、ナイトコンテンツなどソフトを考えたらよい。

7 箱根中学校PTA

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・ 中学校PTAは父兄の集まりで、会員は60人前後。
- ・ 役員は本部が6名（男性3・女性3）で、その下に4つの委員会（地区委員、広報委員、学年学級委員、成人教育委員）がある。
- ・ 任期は長くて3年だが、兄弟がいると更に延びることもある。
- ・ 成人教育委員は、家庭教育や引きこもり等、会員に対して研修会を行っている。
- ・ 見守りステッカー事業（※小学校も含めたPTA）
防犯カメラ設置率の低さをカバーするため、公共のバスや、保護者等の車両へステッカー貼り、防犯意識の向上を図るため行っている。
- ・ 制服リサイクル事業（※中学校のPTA）
卒業や成長に伴い着られなくなった制服やジャージを集め、被長とする生徒へ無償提供できるように案内している。
- ・ 晴れの日ボックス事業（※中学校のPTA）
普段直接言えない、先生や保護者の方への感謝の気持ちを手紙として届ける活動をしている。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・ 生徒数減少に伴い、保護者も減少する中で今まで通りのPTA役員構成を維持することが難しくなり、年々構成人数を減らして活動しているが、基本的な会議等が減るわけではないので、役員一人あたりの仕事量が多くて困っている。
- ・ 必然的に、次期役員選出にも人選が限定され、毎年苦慮している。
- ・ 県の会議、県西の会議、下郡の会議と、会議が多い。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・ コロナ禍のため、軒並み楽しいイベント（運動会・修学旅行・文化活動発表会）が縮小や中止となる中、思い出に残るような代替イベントを行いたい。
- ・ これまでの活動をできるだけ継続してやっていきたい。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・ 町と協働してイベント等を計画していきたい。
- ・ 現在、生徒数減少に伴い、部活動の再編計画を進めているが、団体競技（野球・サッカー・バスケットボール等）が必然的に消滅の一途をたどり、生徒たちの活動意欲を強制的に奪ってしまうことを避ける検討を、学校だけでなく関係各所協議して最善の方法を検討したい。

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・ 生徒数減少となっても、充実した学校生活を送れるような環境を確保してほしい。
- ・ 今まで以上に子育てに関する支援を拡大し、町内の子ども数が増えることを期待したい。
- ・ 町から巣立った子どもたちが、大人となった時にまた箱根に戻り就職し、家庭を持てるような環境の整った町であってほしい。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・ 町内の子どもについては、町内施設、スポーツ施設（グラウンド・体育館）、文化観賞施設（博物館・美術館）、観光用交通機関（ロープウェイ・観光船等）を無償で利用できるようにしてほしい。
- ・ 現状を変えていくには、突拍子もないことも必要ではないか。

8 子ども会育成連絡協議会

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・理事会のメンバーは5地区の会長、副会長など10名以上になる。
- ・各地区の子ども会と協力し連合組織として活動している。
- ・レクリエーション大会、交換子ども会、翌年のリーダー育成などが主な活動。
- ・保護者の意向で子ども会に入っていない家庭もあり、概ね8割程度の加入率と思われる。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・子ども、家庭数の減少により、太鼓、獅子舞、相撲大会、神輿など、伝統文化の継承と経験が困難になってくる。
- ・地区に複数の子ども会があるところもあるが、小涌谷、宮ノ下、大平台が温泉地区連合子ども会になったように、学区単位になったり、最終的には町で一つの子どもの会となり、自治会との連携も希薄になることが危惧される。
- ・コロナにより各行事が中止になっている。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・固定観念をなくし、今までの常識的な考えではNGであった行事なども考え方を变えて実施してみたい。
- ・例えばサバイバルゲームなどは、人を撃つという点ではよくないが、チームワークを確立するにはよい取り組みになる。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・eスポーツやプログラミングなど、ITを活用したイベントの実施。
- ・当日までの準備などを協働できるとよい。また、他団体との連携も期待したい。

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・子どもが一生住み続けたいと思い、老人も笑顔で生活できる町であってほしい。
- ・子どもが高学年になるほど住み続けたいという子が減る。Uターン就職を支援したり、帰ってきてくれる魅力が町にあたりするとよい。
- ・病気になっても安心な医療体制や買い物環境が整っていると笑顔が増えるのではないかな。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・渋滞用のライブカメラしかないの、「国道」、「学校と保育園」、「通学路」へ防犯カメラを設置してほしい。町と自治会などで設置の仕組みづくりができるとよい。
- ・外国人旅行者や管理者が常駐しない民泊など、観光客や宿泊施設が多様化している中、夜間の騒音など問題も出てきているので、地元住民が安心して生活できる環境づくりに力を入れてほしい。
- ・災害などを受けて、子どもたちの中には観光は弱いというイメージができてきているような気がする。観光だけではない仕事が根付き仕事の選択肢がないと、定住する子は増えないのではないかな。

9 箱根湯本芸能組合

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・見番は、芸者が所属する置屋の組合事務所。町の旅館・ホテル等への芸者手配が主な仕事。踊りのお稽古場もある。
- ・構成は120人（置屋31含む）。コロナのため150人から減少してしまった。
- ・年齢は20～80歳まで（平均年齢は29歳ぐらい）。若い芸者さんを“きり奴”と呼んでいる（箱根独自の愛称）。
- ・旅館やホテルでの宴会や懇親会等で、踊り・唄・三味線でお客様におもてなしをするのが主な仕事。イベント等に参加し、町のPR活動等も行っている。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・コロナ禍で観光客が減少し、収入が1割程度になってしまった。
- ・交付金等の支援を受けたいが、はっきりとした所属が無いので支援が受けられない（芸術にもスナックにも含まれない）。要望を聞いてもらうための訴え先がない。湯河原の組合と一緒に県に訴えに行ってみたが難しい。自分たちが何の所属がわからないのが一番の悩み。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・お客様はリピーターが多い。その人たちのためにも存続できるように頑張っていきたい。
- ・コロナ収束後には必ず観光客が増えると思っている。その時に向けて色々準備をしている（プロモーションビデオや写真集の作成）、広告宣伝など。
- ・コロナ前はインバウンド旅客が増えていた。海外の観光客には夜のお座敷よりも、昼間のイベント、写真撮影などを行っていた。引き続き海外の観光客も楽しめるように工夫していきたい。
- ・TikTok、バンド活動、ライブ配信など時代に沿ったPRも引き続き行っていきたい。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・町から声をかけていただき、現在は空いた時間を活用してワクチン接種の支援に行っている。
- ・今後も町のPRになる場面（大名行列等）に、踊りなどで参加できればと思っている。

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・再び観光客で町全体が賑わってほしい（京都の次の観光地なので）。
- ・箱根は春夏秋冬景色が素晴らしい。温泉も素晴らしい。
- ・場所（地域）によって区切られている感じ（イメージ）がある。町の中の交流が必要。
- ・住みやすく、活気があって、長生きしても安心して住めるまちであってほしい。
- ・高齢者になった時に費用が少額の老人福祉施設があったり、高齢者になっても元気なら働ける場所があったりするとよい。福祉の充実を期待している。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・役場職員の異動が早い。提案しても要望が通るまでに担当者が変わってしまう。
- ・財政難であれば町もクラウドファンディングを利用してみてはどうか。
- ・町全体の統一感（外観）がほしいが費用がかなりかかるので、駅から旅館に入るまで同じ衣装で統一感を。ほんの1つでも良いので。まずはリボン・バッジからでも。

10 伊豆箱根鉄道株式会社

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・会社全体の事業内容は、運輸業（鉄道事業、船舶事業）、不動産業（不動産賃貸業）、レジャー・サービス業（鋼索鉄道事業、飲食店・物品販売業、広告業、保険代理店事業）、その他の事業（自動車道事業 他）を行っている。
- ・箱根地区では、観光・レジャー事業（遊覧船、レストラン、売店）、路線バス、タクシーを行っている。
- ・箱根地区のレジャー事業（遊覧船、レストラン、売店）は、芦ノ湖周辺で行っている。路線バスは、営業所が小田原にあり、箱根までの路線は小田原駅や熱海駅から出ている。
- ・従業員数は 386 名（2020 年度末現在）。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・箱根地区に関しては、コロナの影響が大きく、芦ノ湖の方はかなり厳しい状況。
- ・道路が狭い。特に塔ノ沢～宮ノ下間の国道 1 号が場所により非常に狭いため、路線バスも通行に支障をきたしている。センターラインを超えないと曲がれない。すれ違う際の事故もある。また、自転車がはみ出してくる場合もある。
- ・大涌谷の慢性的な道路渋滞により、路線バスの遅延状態が続いている。災害などの有事の際には多大な影響も懸念される。土砂災害等に備えた方が良い。
- ・道路の狭さと渋滞に関しては、県にも要望を出している。
- ・芦ノ湖エリアの人手不足。アルバイトが確保できない。箱根に住んでいる方を採用できた方が良いが、現実的には難しい。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・芦ノ湖を中心とした箱根町の観光産業・交通事業の発展。
- ・おもてなしできる体制の整備。
- ・他の交通会社と連携して共通券などを発行できると良い。
- ・2019 年に日本大学国際関係学部と協定を結び、伊豆観光文化論の講義を実施したほか、学生のインターンシップの受け入れを積極的に行うなどの連携を行っている。引き続き観光産業を盛り上げるための活動も行っていきたい。
- ・2021 年に静岡県東部の J A 3 組合と協定を結び、なり手不足対策・販売拡充・新商品の開発等を行っている。観光客の増減が会社の収益にも大きく関わるため、Wワーク先の確保にも繋がればと考えている。
- ・SDGs に近いものが会社のグループビジョンにある。現状は大きな投資ができないので、小さなことから行っていきたい。
- ・MaaS に関しては、箱根地区ではないが Izuko に参加している。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・観光振興・防災（パーク&ライドなど）。民間の力だけでは難しい部分も多いので、官民学含めて、より良い形にできたらと思う。
- ・神奈川県「箱根山火山防災協議会」の構成機関でもあるため、防災などでも協力できたらと考えている。
- ・パーク&ライドに関しては、観光客が利用することで渋滞が緩和され、防災面でも環境面でも良いのではと考えている。

⑤ 5 年後、10 年後、どのような町であってほしいですか。

- ・観光産業がさらに発展し、観光客が増え、新たな職場が生まれ定住人口が増えると良い。

- ・工場等の誘致は難しいので、新たな目玉（例えば自然と共存した施設等）で観光客が増えると良い。長い歴史・自然・今の物と融合させて何か生み出せると良い。
- ・海外の方は「神奈川県」を知らなくても「箱根」「富士」は知っている。その知名度の高さを生かせると良い。
- ・町を元気に、みんなで元気に、地域が元気に。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・②の抱えている問題でも触れたが、まずは塔ノ沢～宮ノ下間の道路をバスが走りやすいようにしてほしい。
- ・大涌谷の慢性的な道路渋滞の緩和により、観光客の有事の際の安全につながり、更にはSDGsの貢献につながる。

11 小田急箱根ホールディングス株式会社

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・小田急電鉄がグループ会社の再編成に取り組み、2004年に「小田急箱根ホールディングス」が発足。
- ・小田急グループの主要エリアである観光地箱根に関する経営計画、営業計画や企画の立案や、旅客誘致活動、イベント実施によるエリア内の価値向上、旅客の受入体制整備などを行っている。
- ・子会社は、箱根登山鉄道、箱根登山バス、箱根観光船、箱根ロープウェイ、箱根施設開発(不動産賃貸業)、箱根登山ハイヤー、箱根登山トータルサービス、箱根プレゼント。
- ・従業員数47名(小田急箱根グループ9社合計1,138名) ※2021年3月現在。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・コロナ禍によるグループ全体の経営状況の悪化。
- ・インバウンド旅客の減少(箱根は2017年から2018年にインバウンド旅客が増えたが)。
- ・公共交通機関利用者からマイカー利用者へのシフト。元々箱根の観光客はマイカーが6～7割であったが、コロナ禍により公共交通を利用する人が減少してしまった。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・地域事業者と連携した施策の推進。
- ・補助金事業の活用。国・県から色々な補助金事業のメニューが出ている。交通渋滞の問題等に対して打ち手が出せないか、町と協働して申請していきたい。
- ・イベント(エヴァンゲリオン等)をやってきたが、単発で終わってしまうものがいくつもあった。再度復活させて町を盛り上げたい。
- ・環境を意識した事業の取り組み。町や箱根町観光協会が中心になり、色々な企業が賛同し環境にやさしい観光地にできたらよい。
- ・渋滞対策。現在取り組んでいることとして、大涌谷の道路渋滞に関しては、ロープウェイを使って混まないエリアに車を停めて大涌谷に行くように誘導している。できるところから町と協働して進められたらいいと感じている。
- ・DXに関しては、徐々に取り入れていきたい(自動開札や切符等・キャッシュレス決済などから)。町と協働してやれることがあれば取り組んでいきたい。
- ・小田急がEMotのサービスを2年前から展開。アプリでルート検索・デジタルチケットの購入・AIを使った旅のプランニングなどが行える。まだアプリしかサービスがないが、若い世代にはハードルが低く活用されているため、このサービスやMaaSを使った取り組みは拡充する予定。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・海外旅客誘致活動の強化。国際観光地であるため、コロナ収束後にインバウンド旅客が戻ってくると推測される。箱根町というブランド力を借りれば効果もあると感じている。グループ内で活動していることもあるし、西武・プリンス・藤田観光・富士屋ホテル等の企業と連携して取り組みをしているので、そういう流れがどんどん出てくると良いと感じている。
- ・観光事業者との集まりは、箱根DMOとの会議「戦略推進委員会」が月に1回ある。企業の皆さんや、各エリアの観光協会の主要メンバーが集まった会議で、そこでは様々なプロジェクトがある。グリーンディステーション、アフターコロナのインバウンド、渋滞緩和に向けた実証実験、ユニバーサルツーリズムの体制づくり、環境にやさしいプロジェクト、エヴァンゲリオンのプロジェクト等々。
- ・環境(SDGs)に関わる取り組みの推進。

- ・補助金事業の活用。

⑤ 5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・地域事業者の横連携がより緊密になっていること。(現在連携中。町+企業で大きなことができると感じている。お客さんにストレスなく箱根を周ってもらえるように)。
- ・地域のお子様が「箱根愛」を持てる地域であること。(良いところに住んでいるなという実感を持ってもらいたい)。

⑥ 町への要望や提案を教えてください。

- ・協力できることがあれば協力したい。箱根版子どもたちのお仕事体験プログラム。外国人観光客が多いので、ホテルのアテンド等もおもしろいと感じている。
- ・住みやすさのアピール(子育て・老後のことも含め)。東京からのアクセスの良さ、リモートワークが可能な方たちは、東京から遠すぎず、週1日ぐらい東京に通うのも苦にならない距離である。
- ・スマートフォンを活用してごみの分別をうまくできないか。

12 彫刻の森美術館

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・1968年9月に財団法人を設立。2012年4月に公益財団法人へ移行。彫刻の森美術館と美ヶ原高原美術館（長野県上田市）を維持運営し、展覧会等を開催している。また、地方自治体等への所蔵作品の貸し出し、美術品の管理やアートプロジェクトのコンサルティング、アート関連商品の開発等を行っている。
- ・1969年8月1日美術館スタート。メンバーは学芸員・修復・広報・運営企画などで構成されている。
- ・職員は27人＋役員。（彫刻の森は18人、美ヶ原高原は3人、東京事務所は5人）

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・彫刻の森の収益力アップ。コロナの影響で入館者数が減少。消費税が上がってから10年以上ずっと入館料1,600円でやってきたが、値上げをした方がよいか検討中。
- ・彫刻の森に集中している収益の多角化。ネット等を利用し、サービスを向上させる。
- ・美術館施設、サービス、展覧会等の顧客満足度アップ。アンケートを10年ぐらい取っていないので取りたいと思っている。
- ・デジタルトランスフォーメーション。ペーパーレス、テレワーク、データのクラウド化、チケットキャッシュレス化、通信機材を取り揃える、音声ガイドQR化等を検討中。フリーWi-Fiは導入済み。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・彫刻等作品の収蔵、展示公開、保守保存、調査研究を行い、情報提供、普及活動に取り組む。
- ・美術館の施設を維持管理し、建物設備の改修更新、ランドスケープ修景を段階的に実施する。
- ・快適なサービス、野外美術館らしいアクティビティを展開して、子どもから大人まで幅広い世代の人々にオンリーワンの魅力と楽しみ方を提供する。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・カーボンニュートラルへの取り組み。美術館だけでは難しいので、地域と連携して行いたい。
- ・酷暑対策。涼をとれる仕組みづくり。現在はミストで対応しているが、木を植え緑の量を増やす、アスファルトの素材など、もう少し対応していきたい。
- ・暮らしと観光について考えるワークショップ（彫刻のあるまちづくり）。
- ・道路標識のブラッシュアップ。観光客目線で、町全体のことが分かりにくい。彫刻の森は案内標識に載っていない。町のランドマークは案内標識に入れた方が分かりやすいし、小さな看板も減りその分、景観もよくなるのでは。海外観光客が道に迷っている姿をよく見かけるがなかなか地域の人には声をかけにくい。

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・風光明媚。いつも美しく。
- ・オンリーワンの箱根ブランドを保つ。
- ・上質な暮らし。暮らせるまちというイメージ付けが必要。
- ・町ぐるみのホスピタリティ。
- ・人材募集をしても人が来ない。ホテル等と人材を取り合いになってしまう。地元の人材がいると良い。町の中で仕事と生活サイクルを回せる仕組みづくり。

- ・箱根はいつまで経っても観光地。歴史の魅力等、もっと深い部分を伝えられていないと感じる。PR不足。観光客には表面だけでなく、もっと深い部分も味わってほしい。
- ・山のリゾート、箱根コーディネーター。例えば登山・釣り等が目的で来たお客さんは、その目的だけを果たして帰るのではなく、普段やらないことを箱根で再発見してほしい。それが仕事や移住に繋がったりもする。箱根は色々なことができる他にはない観光地だと感じているので。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- ・快適に周遊できる交通システム。
- ・箱根、小田原、御殿場の受け入れ体制をリアルタイムで検索できる救急医療サイト。休日夜間等の情報はあがるが、それだけでは足りないと感じている。お客さんがどこから来てどこに帰るかによって、搬送先も考えてしまう。また、小さい子どもや観光客を受け入れてくれる近場の病院があまりない。受入れが難しくいつも苦戦する。できればリアルタイムで分かる医療サイトのアプリがあると助かる。
- ・進行形で、町、DMOの取り組みを情報共有できる方法。
- ・仁ノ平エリアへの支援。地域の人との関わりが少ないが、盛り上げていけたらよい。
- ・町民の人を優待し、普段使いできる美術館にする。都市部では味わえないので。

13 星槎大学

①団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ・星槎グループは、「学校等教育事業」をメインに、「国内・国外支援事業」「教育周辺事業」の3つを主に展開している。
- ・箱根地区では、学校法人国際学園が星槎箱根キャンパス（旧仙石原中学校跡地活用）及び星槎レイクアリーナ箱根（箱根町総合体育館指定管理者）を管理運営している。
- ・職員は、常駐8名、アリーナを含めると全部で14名。町民を多く採用している。
- ・星槎箱根キャンパスは、星槎大学（通信制）と、スポーツクラブ。スポーツクラブには地域の60名ほどの会員がいる。
- ・星槎レイクアリーナ箱根は、施設貸出事業がメイン。
- ・現在展開しているプロジェクトは、星槎箱根キャンパスと星槎レイクアリーナ箱根の運営。「県西地域におけるパラスポーツ振興の拠点形成」事業。「健康な高齢者による小さなまちづくり」事業。「SKYプロジェクトの一翼を担う拠点形成」事業。
- ・横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs」を取得している。
- ・地域の方を対象とした無料の英会話教室、体育館や格技場の貸し出しも実施。

②団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ・コロナ禍により、箱根キャンパス及び星槎レイクアリーナ箱根いずれの事業も経営不振を余儀なくされている。キャンセルが多く営業活動にも制約が出てきている。
- ・箱根キャンパス及び星槎レイクアリーナ箱根、いずれの施設も老朽化が進んでおり、これに伴う施設改修費が高く、健全なる経営迫及を圧迫している。

③今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ・箱根町に更なる貢献はできないかという想いと、「人生100歳時代」に向けて、3つのプロジェクトの展開を検討している。
- ・①人材コーディネイトセンターの開設運営事業（元気・活力のあるシニア時代と活躍の場・生きがいづくりの場を恒常的にマッチングする事業）。
- ・②箱根観光ソムリエ研修センター運営事業（行政と協働し、町の観光地としての魅力を力強く発信していく人材の養成を狙いとして「観光ソムリエ」を認定する研修プログラム）。
- ・③人生100歳時代に向けた意識の啓発事業（セミナー・イベント等の開催）。
- ・その他、障害スポーツの聖地を目指した活動を展開している。

④町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ・上記と同様。
- ・今まで大原地区の子どもを中心にバックアップしていたが他の地区の子どもも要望があればバックアップする。
- ・引き続き、地元を大切に、憩いの場、交流の場にしたい。

⑤5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ・現行の総合計画で掲げているまちの将来像は、町の置かれている立場（特に人口減少推移予測）からすると若干ひ弱である。町が未来永劫、健全な町でかつ逞しく在り続けるという願いを込めて『そして生き切る町』を追記されてはどうか。
- ・『生き切る町』とは、生き残りではなく、使命感をもって生きることを指す。

⑥町への要望や提案を教えてください。

- まちづくりについては、活性化のため町に所在する事業所のほか、星槎グループの資源を積極的に有効活用されたい。
- 星槎箱根キャンパスについては、不登校対応支援事業（小中高）が可能であり、これらのニーズがあれば対応可能。高校に関しては星槎国際高校で必要な単位が取得できる。過去2名卒業の実績あり。
- 要望については、箱根キャンパス及び星槎レイクアリーナ箱根の両施設は老朽化が進んでおり、これに伴う改修費が高く、経営をかなり圧迫している状況にある。基本協定書等においてその改修は当方となっているが、同町においても家主として何らかの手立てをお願いしたいと考えている。
- 人口減少や高齢化への対応は、中長期的な取り組みが必要。取り組みが薄いと感じる。

IV 資 料

箱根町第6次総合計画後期基本計画策定に係る

各種団体ヒアリング調査のお願い

春分の候、貴団体におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、町では令和2・3年度の2か年をかけて「箱根町第6次総合計画後期基本計画」を策定します。この計画は、本町が行政施策を展開していく上で、最も重要かつ最上位の計画となります。

策定にあたり、住民を対象にしたアンケート調査、パブリックコメントなど様々な機会を設け、より多くの方の声を計画に反映させたいと考えております。

そこで、箱根町で活動されている各種団体の皆様のご意見等については、直接お会いして聞き取り調査（以下、「ヒアリング調査」という。）をさせていただきたいと思っております。また、コロナ禍の折、WEB形式でのヒアリングも想定しております。

ご多用中恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

●計画の期間

後期基本計画の期間は、令和4年度から令和8年度の5年間。

●ヒアリング調査の目的

各種団体の皆様が、「現在抱えている課題」や、「今後の取り組み」、「町との協働について」を把握すること。

●ヒアリング形式

インタビュー形式。

堅苦しい形式的なものではありませんので、皆様が日ごろ考えていることを率直にお聞かせください。

ZoomやTeamsなど、WEBでのヒアリングをご希望の団体は、その旨、お知らせください。ご多忙の折りとは存じますが、ご協力をお願いいたします。

担当者 箱根町役場 企画課 早野 Tel 0460-85-9560

箱根町第6次総合計画後期基本計画 団体ヒアリングシート

団体名 _____

担当者 _____

連絡先 _____

メールアドレス _____

(ZoomやTeamsなど、WEBでのヒアリング 可 ・ 不可)

※可か不可どちらかに○を記入してください。

- ① 団体の構成や主な取り組み内容を教えてください。

- ② 団体が抱えている悩みや課題を教えてください。

- ③ 今後どのような取り組みをしていきたいですか。

- ④ 町と協働してやれること・やりたいことがあれば教えてください。

- ⑤ 5年後、10年後、どのような町であってほしいですか。

- ⑥ 町への要望や提案を教えてください。

※このヒアリングシートは、箱根町の委託業者である株式会社サーベイリサーチセンターで作成したものです。